



歯学部創設30周年

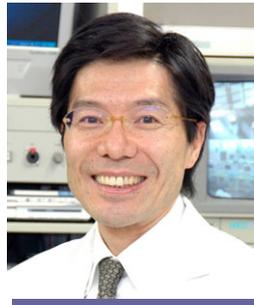
発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

入学を祝す

歯学部長 宮崎 隆

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本歯学部では、これからの超高齢社会でチーム医療の一員として活躍できる歯科医師を養成するために、他大学には無い特徴をそなえた大がかりなカリキュラム改編を行い、平成15年度から順次実施しています。



新カリキュラムの大きな特徴の一つ目は、6年間一貫して、社会との関わりの中で自ら学ぶことです。教室や実習室で教員から学ぶだけでなく、地域社会が皆さんの先生です。1年生から早速「生活と健康」という科目や「早期体験実習」が開始します。保健・福祉を広く学び、体験を深めながら、学年が進行すると共に、チーム医療に参画できる歯科医療人を目標に専門性を深めていきます。

二つ目は、問題基盤型学習(PBL)の導入です。今、世界をリードしている多くの著名な大学では、学生がスモールグループで自ら問題を抽出し、資料を調べ、自分の頭で考え、またグループで討論してさらに学習を深める形式の「PBL-チュートリアル」を導入しています。本歯学部では全国の他の歯学部、歯科大学に先駆けて、PBLの導入に鋭意務めてきました。今年は1年次からPBLを導入する予定ですから、是非自ら学ぶ力を養って欲しいと思います。

三つ目の特徴は選択実習です。夏休み等の課外実習はもとより、6年生の正規のカリキュラムとして、学内および海外を含めた学外施設で選択実習を行います。国外の施設として、オーストラリア(アデレード大学)、米国(南カリフォルニア大学)、ドイツ(チュービンゲン大学)、中国(大連医科大学、天津医科大学、上海第2医科大学)等と交流プログラムをすでに締結しています。積極的にチャレンジして下さい。

このように、皆さんには魅力的なカリキュラムを用意しましたが、受け身ではなく、自らたくましく学び成長して欲しいと思います。そのためには、頭脳(知識)だけでなく、体力(健康)や人間性の涵養が必要になります。富士吉田の恵まれた自然環境、全寮生活、運動施設、これらを生かして、長い医療人の基礎となる人間性の涵養、体力作り、生涯継続的に学習するための学ぶ力の養成等を目標に、充実した1年間を送るように期待しています。

平成18年度入学式挙行される

歯学部長 宮崎 隆

生憎の曇り空ではありましたが、荘厳な雰囲気の中、明治神宮の森の中にある明治神宮会館において、去る4月7日(金)午前10時より、平成18年度の昭和大学入学式が厳粛に執り行われました。医歯薬保健医療学部合計596名(編入生14名を含む)の新入生と保護者で、会館内の大講堂は2階までびっしり埋まりました。細山田学長の告辞と小口理事長の祝辞のあと、各学部の新入生が一人ずつ紹介され、各学部の代表が宣誓を行いました。歯学部からは96名を代表して、中村彩乃さんが力強い宣誓をしました。校歌を斉唱して入学式は閉会し、引き続き入寮式を挙行しました。

従来入寮式は入学式の翌日の午前中に富士吉田校舎で行っていましたが、今年度から保健医療学部の学生が加わったので、講堂のスペースの都合上、入学式に引き続きの開催になりました。細山田教育部長(学長の兼務)と倉田学生部長の挨拶に引き続き、壇上の教員と寮監が紹介されました。休憩を挟み、細山田学長の昭和大学の歴史に関する特別講演を拝聴後、学生はバスに乗り込み、希望を胸にいて東京をあとに富士吉田校舎へ向かいました。



昇任、採用、認定医取得

広報委員長 五十嵐 武

北川 昇: 助教授(高齢者歯科: 4月1日付)
内田 圭一郎: 助手(高齢者歯科: 4月1日付)
深町 はるか: 助手(口腔微生物学: 4月1日付)
平野 薫: 助手(口腔リハビリテーション科: 4月1日付)

認定医取得

田谷 あつ子: 日本歯科放射線学会認定医

歯学部5年生 登院式にて思うこと

副病院長 榎 宏太郎

D5の皆さんが白衣を着て臨床講堂に座っていると見ると、一年前よりもかなり大人になったと感じました。

臨床実習のスタートは、5年前に医療人としての道へ進むことを決意した学生諸君にとって、最もその選択の輝きと厳しさを実感する時ではないでしょうか。

実習期間を通して、自らがそれまでに蓄積した知識や技能を実戦の場でどのように活かすべきかを考えて頂きたいのと同時に、病める人々に対する自分達の無力さを感じ、臨床歯学における様々な問題点に直面して悩み抜いて頂きたいとも思います。

基礎を学んでいる時は、早く臨床を知りたいと思ひ、臨床を学んでいる時は、もっと基礎を勉強しなければと感じる。それでいいのではないのでしょうか。そして、我々は、患者さんに、教わり、尽くし、生かしてもらっている、ということを実感し、卒後の人生を決定する際の一助となるべく、呉々も無為な日々を過ごさないことを祈ります。



卒後臨床研修始まる

総合診療歯科 長谷川 篤司

歯科病院では平成18年度歯科医師臨床研修が始まりました。研修方式としては、学内で6ヶ月間研修するだけでなく、学外の研修施設(主に開業歯科医院)でも6ヶ月研修できる、いわゆる臨床研修施設群方式を採用しており、基本的に全員が同じプログラムで研修を行ないます。4月3日のオリエンテーション後に班分けが発表され、学内ローテーション研修、総合診療歯科研修、学外施設研修に分かれて研修を開始しました。

本年度より、学内ローテーション研修では、①補綴・口腔外科系コース、②保存・高齢者系コース、③小児・矯正系コースの特色ある3コースを準備し、希望するコースを選択できるようにしました。また、学外研修は関東近郊を中心に全国53の診療施設から2診療施設を選択して、3ヶ月ずつ研修できるようにしています。なお、国家試験発表(4月5日)によって研修者数が確定し、本年度は97名が正式採用となりました。



平成18年度 D2, 3, 4, 6進級式

教育委員長 佐藤 裕二

進級式とは聞き慣れない言葉でしょう。本年度からオリエンテーションを「進級式」に変更いたしました。何が違うかという、重みです。単に事務連絡ではなく、進級した喜びいっぱいの学生たちが、セレモニーのなかで、心構えを新たに、新しい年度のスタートを切ることを目指しました。

4月3日の朝から夕方まで、学部長・学生部長は大忙しでした。D2ではスーツ着用で、記念撮影も行いました。多くの方のご協力により、従来のオリエンテーションとはひと味変わった引き締まった式になったと思います。ありがとうございました。学生たちのこの一年の成長ぶりが楽しみです。次年度からは登院式同様に、学生の宣誓なども取り入れてゆきたいと考えています。



富士吉田オリエンテーション

学生部長 立川 哲彦

平成18年4月7日に昭和大学の入学式が行われました。歯学部には96名が入学されました。本年度は保健医療学部の学生も1年生の寮生活になるために、入学式会場で入寮式も行われました。式後、全員バスで富士吉田校舎へ移動し、入寮いたしました。翌日午前には全体オリエンテーションが行われ、富士吉田での教育科目の説明や寮生活における注意事項がなされました。

午後からは各学部に分かれ、学部別オリエンテーションが実施されました。まず、宮崎学部長が挨拶され、新入生は緊張した面持ちで挨拶に聞き入っていました。続いて、立川学生部長からの挨拶と富士吉田での学生生活でやっておくべきことの説明がされました。佐藤教育委員長からは歯科医になるための教育について詳しく説明され、新入生は厳しい顔つきで説明を受け、これから歯科医になることを改めて自覚していた様子でした。



新男子寮建設工事地鎮祭執り行われる

歯学部長 宮崎 隆

平成17年度の事業計画で、富士吉田校舎の新女子寮(すみれ寮, 200名収容, 6階立て)建設, 校舎5号館新設, 食堂棟の改修等が行われ, 本年4月から従来の医歯薬3学部に加え, 保健医療学部の1年生も富士吉田校舎で学んでいます。

平成18年度は, 富士吉田校舎教育施設整備計画第Ⅱ期-1建設工事が事業計画化され, 女子寮の隣に新男子寮を建設することになりました。去る4月18日(火)に現地で地鎮祭が執り行われ, 小口理事長ほか学校法人の役員, 設計と建設の会社関係者, さらに富士吉田市長ほかの地元の来賓が参列しました。学生が生活している環境での工事になるので, いろいろと配慮が必要のようでした。

校舎内の桜は3分咲きで富士山麓は春たけなわといった感じでした。学生も入学後まだ10日間くらいの寮生活ですが, 少しずつ生活に慣れてきたようでした。



アデレード大学夏期実習説明・報告会

顎口腔疾患制御外科学 片岡 竜太

2005年3月に宮崎学部長がアデレード大学歯学部との交流プログラムに調印されました。この交流プログラムにより, 昨年7月25日から8月13日までの3週間にわたって本学歯学部から武井美咲(4年), 森田真由(3年), 小野岳人(3年)の3名がアデレード大学に短期留学しました。この報告会と夏期実習説明会が昨年12月12日(木), 午後4時半より4号館600号教室にて開催されました。

この報告会には2, 3, 4年の学生に加えて, 後藤前歯学部長, 宮崎歯学部長をはじめとする教員も参加されていました。まず佐藤教育委員長による夏期海外実習の説明と, 片岡によるアデレード大学歯学部における学部教育の説明が行われました。その後3名の学生が, 参加したコース, PBL のシナリオなどの説明を行い, ついで昭和大学とアデレード大学のカリキュラムやPBLの比較をした後, 昭和大学のPBLの改善のためのさまざまな提案をしてくれました。発表全体を3人で分担し, チームワーク良く大変まとまった報告をしてくれました。

今回初めての学生の短期留学が実現し, 3名の学生の努力とアデレード大学の先生方の暖かい受け入れ態勢により, 大変良い結果が得られたと思います。今後アデレード大学との交流プログラムに参加した学生諸君が昭和大学に良い刺激を与えてくれることを期待します。

ハイテク研究発表会報告

口腔生化学教室 宮本 洋一

平成17年度研究成果発表会が3月25日(土), 歯科病院第1臨床講堂および第1会議室を会場として開催



されました。昭和大学「大学院」歯学研究科は, 私立大学による最先端の学術研究を支援する文部科学省ハイテク・リサーチ・センター事業に選定され, 平成17年度から5か月年間, 「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」を実施しています。今回は, その第1回目の成果報告会です。

第一部の講演会では, 植田耕一郎先生(日本大学歯学部摂食機能療法学教室教授)による「摂食嚥下機能回復の新しい考え方-臨床応用を意識して-」, 向井美恵先生(口腔衛生学教室教授)による「口腔の形態成長と機能発育との関連性-画像解析の有効性と限界-」の2題の特別講演がありました。

第二部では, 各研究班による研究成果がポスター形式で発表されました。「顎口腔機能障害の発症機序解明」班から7件, 「先進的診断・再建法の確立」班から8件, 「新しいリハビリテーション歯学の構築」班から4件, 計19件の発表がありました。

今回は学内外から約150名の参加者がありました。講演会, ポスター発表とも活発な質疑応答が行われ, 今後のプロジェクト遂行にとって大変有意義な発表会になったと思われま。準備運営担当の歯科矯正学教室, 口腔生化学教室としましては, 今回の経験を次回以降の研究成果発表会に生かしたいと考えております。



診療統計

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	20,297	845.7	795.5	789.6
入院患者	460	14.8	10.5	15.0

平成18年3月分

第99回歯科医師国家試験結果

D6チューター会議委員長 上條 竜太郎

第99回歯科医師国家試験結果が4月5日発表されました。今回は、全国の受験者総数3,308名で、合格者数は2,673名、合格率は80.8%（私立大学77.4%、国公立大学90.8%）でした。昨年度の合格率（全体で74.6%、私立大学で77.4%）と比較して、本年度は合格率が上昇しており、例年より広き門でした。本学歯学部からは新卒者90名、既卒者22名が受験し、それぞれ87名、14名が合格、合格率は90.2%で全国平均を大きく上回りました。特に新卒者の合格率は96.7%で、全国の私立大学中第1位（全歯科大学・歯学部中でも第2位）の好成績を収めました。

今回の好成績の一因は、本学受験生の努力と教員の親身の指導、そして昼夜を問わずご指導いただいたチューターのご尽力の賜と思われまます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。次回は教員、学生一丸となって卒業生全員合格を旨したいと思います。皆様のご指導、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

D6選択実習開始

歯周病学教室 山本 松男

本年度の歯学部6年生は4月17日から6月23日までが春休みとなりました。本年度より、この期間を利用して2週間を1単位とした臨床・基礎プログラムを2単位選択する「選択実習（必修）」を開始しました。歯科病院診療科だけでなく学外（歯学部連携4大学、他大学附属病院、一般診療所など）や海外（アデレード大学）、さらには基礎講座のご協力を得て臨床を基礎の側面から見つめ直す機会も設けることができました。関係諸氏より多大なるご協力をいただき、深く感謝申し上げます。より広い医学・歯科医学を経験・学習する機会をいただき、まだはじまったばかりですが、学生からも「新鮮な感覚で実習に参加できて大変有意義だ」という中間報告を受けています。

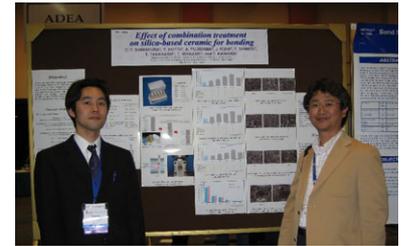
医療を取り巻く社会の急速な変化に対応するために、歯学教育にもさらなる多様性が求められています。自ら進んで学習する習慣を身につけた歯科医師、医療連携の重要性を理解した社会性のある歯科医師、生涯にわたって学習し続ける歯科医師など、本質的な実力が要求されるようになってきています。昭和大学歯学部卒業生が、この様な社会の中でも活躍できる歯科医師になるために、新しい教育システムの導入を果敢に進めているところです。教育現場スタッフにとっても、学生にとっても期待や戸惑いなどが混在しているかもしれません。それでも大きな事故もなく無事カリキュラムが進行しているのは、学生の積極的な姿勢と、教育に携わる教育スタッフのご理解・ご協力に負うところが大きいと思います。

今後とも有意義な実習になるように、皆様のご協力をお願いいたします。

第35回 AADR 総会・学術大会

歯科理工学教室 堀田 康弘

3月8日から11日までの4日間、フロリダ州オーランドで行われたAADR（American Association for Dental Research）



に参加してきました。この AADR はその本体である IADR（International Association for Dental Research）の中のアメリカ部会で、通常、IADR がアメリカ国内で開催される時は共同開催されています。しかし、今年は IADR が、アメリカを離れオーストラリアで6月に開催される為、個別の開催となりました。個別とはいえ、第83回 ADEA（American Dental Education Association）と第30回 CADR（Canadian Association for Dental Research）との共催であった為、総演題数も2,223演題と通常の IADR にも引けをとらないものでした。ただ、インターナショナルではなくアメリカ部会が主である為、日本からの演題数は少なかったように思います。昭和大学からは、補綴学教室から久保先生、嶋倉先生、村山先生の3名が発表され、いずれも活発な討論が行われておりました。

今回 AADR が開催された場所は、ディズニーワールド内に立地するディズニーワールドドルフィンホテルで、遊ぶにはもってこいの場所でしたが、皆さん後ろ髪を引かれながらも積極的に学会へ参加されていました。

報道された歯学部

広報委員長 五十嵐 武

・向井 美恵 教授：朝日新聞 2006. 3. 27（朝刊）
「生活（医療）欄：舌癖の訓練についての質問に回答」

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

5月20日（土）：PBLファシリテータ養成ワークショップ

5月27日（土）：CBTワークショップ

編集後記

広報委員（歯科薬理教室） 坂井 信裕

新年度始めのお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿して頂きました先生方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。CBTに続き、第99回歯科医師国家試験も好成績を納めました。本当に学生達はがんばったと思います。そして、ご指導にあたられた先生方のご尽力の賜と思います。この結果によって、他大学からの注目度は更に増すと思われ、大変身の引き締まる思いが致します。講義ご担当先生方におかれましても、ご多忙を極めるかと存じますが、皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。